

国語プリントNo. ()

配布日 月 日 曜

片桐の国語授業について

2012年改訂版

年 組 番 名前

ルール連絡

- ①教室移動はすばやく。始業のチャイム以前に着席。
- ②始業のチャイムが鳴った際に、席にいないければ欠席、欠課、遅刻。
- ③遅れた場合は、自分で理由と共に申し出る。こと。申し出てこない場合は、欠席となる。
- ④座席表通りに着席すること。
- ⑤空席者を欠席扱いとする。勝手に席を代わらない。
- ⑥授業で毎時間用意するものは、学校で一括購入した国語の教具（教科書・便覧《必要に応じて》・参考書・問題集・辞典など）・紙製のA4ファイル・紙製の表紙のB5大学ノート・筆記用具（黒ペン必要）。
- ⑦国語を学習する上で、言葉の意味を確認することは非常に重要なことです。解らない語がある場合はすぐに調べられるような用意をして下さい。
- ⑧授業前に机の上に用意しておくこと。後からロッカーに取りに行かないように。
- ⑨全ての教具には黒ペンで記名をしておくこと。
- ⑩配布プリントを閉じる紙製のA4ファイルを準備すること。
- ⑪これから、たくさんプリントを配るので、それをなくさないように保管するファイルが必要です。以前に配ったプリントを参考にして学習することがあるので、すぐに参照できるように整理しておくこと。
- ⑫B4プリントの折り方は、半分に折ってさらに4分の1に折る。指定通りでない場合は再提出となります。（末ページに図解あり）
- ⑬配布プリントは、無くした場合、再配布しません。（各自コピーをする。）
- ⑭欠席、公欠などの場合は、次に出席した時に渡すので忘れずに自分で取りに来ること。また、教務室に取りに来ること。ただし、もらいに来るのが遅いとプリントが無くなっている渡せなくなる場合があります。
- ⑮紙製の表紙のB5大学ノート（一般的な大学ノートです）が必要です。
- ⑯ルーズリーフ、バインダー不可。

目的と目標と手段

- 学校教育の目的……
- 「人格の完成」（『立派な大人になる』）
- 国語教育の目標……「日本語の機能を理解し、

「○年○組の×▲□★ですが、片桐先生
いらっしやいますか？」

- ⑫記入面にもようがあるものや、背景色が濃いものは不可。
- ⑬ノートの記述の仕方はフォーマットを別に指示します。
- ⑭課題は必ず指示された形式で作業を行うこと。
- ⑮話をよく聞いて、どのように作業をすればいいのか考えること。
- ⑯文字の形、濃さ、表現の内容によって伝わりにくい場合は再提出となる。
- ⑰授業とは集団で行われる学習行為である。どうして隣に仲間がいないがらにして学習行為がおこなわれるのか、その効果を考えること。
- ⑱始業・終業の礼は厳粛なものである。正しい挨拶・例を身につけること。
- ⑲各自授業中に話していい時と話してはいけない時を判断すること（空気を読むこと）。
- ⑳私語・居眠りは学習不参加であり、欠課と同等と見なす。特に教師が全体に説明している時の私語は他人の知識と時間を奪う最も悪質な授業妨害行為である。
- ㉑飲食・内職は、完全に学習不参加である。没収の上、返却しない。
- ㉒その時間に教室に入っても授業に参加しなければ、欠席と同じ事である。
- ㉓学習目標を達成するためにはモラルに反しない限り何をしてもかまいません。
- ㉔クラス全員が同意し、目的に向かった学習意義のあるものだったら、何でもおこないます。
- ㉕片桐は基本的に生徒指導室にいます。
- ㉖入室の際には、以下のように名乗る。

- ㉗皆さんの表現作品をWeb上で公開することがあります。そのときには許諾を得た後に掲載します。
- ㉘週一度の小テストに加えて、必要に応じて追試、スピーチ、言語に関する小テストをおこないます。

日本語を適切に使えるようにする。 日本言語文化の伝承をする。」

○ 学校生活の目標……

○ 個人の進路の目標……

○ 片桐国語授業の目標…… **みんなの学力向上**

○ それらを実現するための手段…… **モラルに反しない限り自由です。**

★ 「目的」と「目標」と「手段」は全く別のものです。「目標」の目的化、「手段」の目的化は絶対に避けなければなりません。

★ 「みんなの学力向上」とは？

クラス全員がその課題を完成することです。そのためにとる最も効率的な手段とは……？

情報の共有化

・ 情報の共有化でみんなが幸せになれる。

「学ぶ」JALGINNA

○ 「学ぶ」ということは、自分の身の回りから吸収することです。「学ぶ」の語源は「まねる」である。

○ 「勉強する」ということは、高校生レベルでは、「自分のわからないところを見つけて、それをわかるようにする。」ということ です。

○ 立派な大人になるために

中村文昭さんの4箇条

① 返事は0.2秒

② できない言い訳をしない

③ たのまれごとはためされごと

④ 相手の期待を上回る

「出会いを生かせば、ブワツと道は開ける！」 PHP 研究所 (2005/10/25)

内田樹さんの言葉より

いつ誰に何を聞けばいいかを会得すれば社会でやっていける

先輩の国語授業で学んだことと作文」

① 国語は、ここまで生きる上で役に立つとは思わなかった。最初はせいぜい話して、漢字を覚えればそれで事足りるものだと思っていた。しかし今年度の国語は違った。文章の中から本当に作者が伝えたいことを見つけ出せるようになったし、逆に受け取る相手に伝わりやすい文章を書けるよ

うになった。中でも一番役立つのは他人と協力することだ。小学校、中学校、と何度も何度も積み重ねて聞かされてきたことだが、高校に入って国語の授業を受けてから初めて思い知らされた。自分だけが課題をクリアしても周りの人のことにまで気を回さないと課題を完全に終わらせたとはいえない。またクラスの全員がそのような気持ちにならないとクラスの隅々まで課題をクリアしないといけないという空気にならず、結局は誰か一人二人が残ってしまう。社会に出てからは他人と協力することが最も重要だ。このことに高校生の段階で気付いて良かった。人はいろいろな性格があるから、協力が苦手な人もいる。そのような人には自分から積極的に空気を作ってあげることも大切だ。また必ずしも他人と協力する課題ばかりではない。時には一人で静かに課題に取り組むこともある。その人には周りの人も静かにして課題に集中できる空気を作ることが重要だ。これもまた一種の協力で、全員が課題を終わらせることができる。このように、協力して空気を作り出すことは生きる上で役に立つ。

② 提出日を守ることと提出することの責任の重さだ。中学の頃はノートを出さないと先生が「今日中に出さない」となど声をかけてくれ、それまでは出さなくていいと考えていた。でも、高校は出さないと容赦なく点を引かれてしまい、下手するとクラスみんなの点まで引かれるということもあり、提出することとは責任もあるということ を学んだ。また、クラス全員が提出しないといけない課題は、何日までに出さなければいけない、合格しなければいけないという、プレッシャーもあり、すごく真剣に取り組み、提出することができた。

